

平成 30 年度 あみまち農活フェア
～女性の力で農業を盛り上げよう～ 参加報告書

平成 31 年 2 月 26 日 (火)、(株)キセキ関東甲信越本社 (研修棟) にて「あみまち農活フェア ～女性の力で農業を盛り上げよう～」が開催されました。同フェアは、東京農業大学・阿見町認定農業者連絡会・阿見町が主催し、女性農業者の視点で農業をみつめ、女性農業者同士の発掘・育成や連携強化を通して地域農業の活性化を図ることを目的に実施されたものです。本学も協力・支援をしており、農学部から、宮口右二教授はじめ教職員も多数参加し、伊藤紀子技術補佐員が事業発表を行いました。

フェアは 3 部構成でおこなわれました。

第 1 部では、まず、東京農業大学が「農業女子プロジェクトについての取り組み」と題して、今年度の活動報告と学生インターンシップの発表をおこないました。次に、阿見町農業振興課から、「農業を魅力ある職業にするために～女性の視点から～」について発表がありました。その後の女性農業者・東京農大学生・新規就農者・行政担当者によるトークセッションでは、農業の魅力ややりがい、課題などが話し合われました。

第 2 部では、「阿見町における加工品開発」(「あみ食ラボ」)、「機能性を活かしたレンコン加工品開発」(本学伊藤技術補佐員)、「レンコン・ヤーコン・そばを活用した飲食メニュー開発」(東京農大・秋山先生)の 3 つの発表がありました。それぞれの団体が商品開発に工夫を凝らしながら、活発に活動している様子がうかがえました。何よりも、活動されている皆さんがとても楽しそうであったことが印象的でした。

第 3 部は、阿見町産の農作物を活用した加工品の試食会が準備され、阿見町産の蕎麦や蕎麦がき、スイーツや米菓などが振る舞われ、参加者からは、その美味しさに感嘆の声が上がっていました。本学からも井上栄一教授と小松崎将一教授のグループがそれぞれ企画・開発した「レンコンパウダー入りチョコレート」と「茨大納豆」が学生たちにより振舞われ、大いに好評を博しました。学生さんの明るい声や参加者の活気ある声などで会場は大変な賑わいでした。参加してくださった学生さんや女性農業者、地域の方々の今後の活躍が大いに期待されます。

